福井大学リポジトリ
UNIVERSITY OF FUKUI REPOSITORY

魅力ある講習会企画のノウハウを身につけよう：ピンとこんなーと言わせない！

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-12-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/00028525

【梅澤先生 Q&A】
質問：講義を受ける前と後で学生が変わった！という手ごたえを感じたことがありましたらお教えください。

回答：対面式の時は、受講後に A5 の紙を配布します。付箋・ルーズリーフ・A4 でも試しましたが、A5 白紙が最も書きやすいようで、イラストや様々な感想を書いてくれ、（学生の心に）これが届いたのか！などの反応がよくわかり、次回のスライドを工夫するなど、授業の改善を図ってきました。鉛筆を持って言葉にするという行為は、本音が出やすいです。

質問：情報の扱い方について、学生にどのような形で伝えてるのでしょうか。
ガイダンスやレファレンス等、どのような工夫を実際にされているのか教えてください。

回答：（図書館、図書館司書への）先入観・イメージを覆すのが大切です。犯罪者予備軍扱いのようなマナー教育でなく、大学 1 年生に、これからは点取り合戦ではなく、地図のない学び、ワクワクすることがあるということを、自らの体験を語るなどして、自分が大学 1 年の時にこんな講習会をやってほしかったと思える講習を目指しています。

質問：大学 1 年生と 4 年生ではどのようにアプローチを変えていますか？

回答：身につまされる内容が一番大事です。1 年生でも、ネットからの聞きかじりばかりだと 3 年後には大きな差がついているとか、4 年生だと卒論とか現在携わっているものの恐ろしさとか。理系の 4 年生や院生に対しては、あえて図書館のリテラシー講習とか言わず、例えば剽窃で話題になった方をタイトルに取り上げると、理系の人間として情報の扱い方を一歩間違えると台無しになっちゃうぞということが一発で通じます。1 年生、理系の学生、4 年生とそれぞれ自分の将来に身につまされる、自分事なんだと気づかせるような一言を入れるのはすごい大事だなと思っています。

【滋賀医大　藤村様 Q&A】
質問：他部署連携の事例を伺えて、とても勉強になります。他部署に対して一緒にさせてもらえないかと打診されるまでの、課内の意思決定の流れについて詳しく教えていただきたいです。（誰（係内？）が発案し、どんな課内調整を経て、誰（課長級？）が打診したのか、など）

回答：たいしたことはしていません、やりたいという機会を見つけたら見つけた人が声をかける感じです。

質問：開催は夜ですか？

回答：診療の後ということで、夕方からが喜ばれます。今年度は、オンラインで行ったため、リアルタイムの後にオンデマンドで掲載し、時間を気にせず見られるようにしています。

【千葉大　飯塚様 Q&A】

質問：外部の講師を呼ぶことについて、予算が必要かと思うが、年度内で計画は経てているのか

回答：外部講師を呼ぶ場合は、年度当初に計画をたて、予算を獲得した上でやっています。

質問：セミナーをオンラインで開催したことで、参加者数にどのような変化があったか。また、広報などで工夫したことを教えてください。

回答：参加者は 2 倍になり、普段、40-50 名だったのが 100 人近くになりました。場所的なハードルが下がり、他キャンパスからの参加者が増えました。広報については、変化はあまりなく、ウェブサイトに掲載し、学内の教員、学生へ一斉メールを送り、SNS に揚げて、と同じ手順を踏んでいました。ただ、参加申し込み方法が Moodle（LMS）を使用するため、参加へのハードルがあがったかと思いましたが、あまり問題にはならず、それなりに届くべきところに届いたようです。

質問：千葉大学の SULA（学習支援専門職）や Institutional Research の方々と連携された事例はありますか。

回答：SULA の方たちとは、ぜひやりたいという話は出ているが、コロナの影響で遅れています。IR とは直接的な連携ができているわけではないが、英文の校正デスクという学習支援の別のチャンネルで IR の部署からご意見いただき、予算面で協力しながらやっています。千葉大学のアカデミックリンクセンターでは、いろんなサービスや事業を展開しているので、トータルで見ると、IR と連携しながらやっているところです。